

Eiche

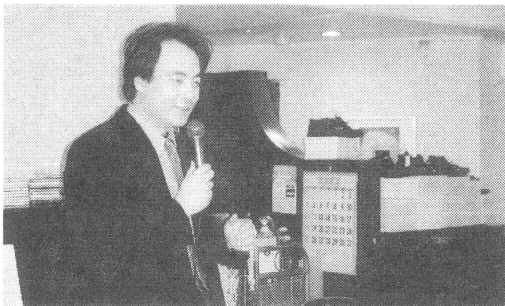
Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナースィングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

新春講演会 開催



講演する佐藤氏



後列右平尾会長・左金谷専務理事

前列左佐藤氏・右渡辺氏

久し振りに当協会副会長田久保忠衛 杏林大学客員教授に「2004年の国際情勢展望」と題して講演会をお願いしていたが、先生の急な体調不良による入院という事情から、後輩にあたる時事通信社外信部デスクの佐藤伸行氏を紹介していただき、1月25日(日)に西千葉駅前喫茶「サン」にて開催された。

千葉大学にドイツから留学中の Antje Weglich さん、Julia Canstein さんも含め 29 名が参加。

一般のマスコミとは一味違った国際情勢の分析、見方に「ナルホド」と頷く会員も多かった。約一時間の講演の後活発な質疑応答が行なわれ、終了後は恒例の懇親会を行い、出席者の自己紹介も行なわれて、6時近く散会した。(講演会要旨下記)

(佐藤氏略歴) 1985年早稲田大学政治学部卒業。時事通信社外信部に18年在籍、その間1990~93年ハンブルク、93~95年ベルリン、1998~2003年ウィーンに駐在。ウィーン駐在中は主としてユーゴスラヴィアの内戦を取材。

二〇〇四年の国際情勢展望

時事通信社外信部デスク 佐藤伸行氏

先ずイラクを巡る独仏と米の対立であるが、一般に伝えられる原因としては、「仏はイラクにおける石油利権が約百億バレルあり、これを手放したくないのでイラク攻撃に反対した」といった見方があるが、オランダ(シエル)や韓国も同様に利権があり、これは当たらない。又、「仏はとりあえずイラク攻撃に反対しておいて、後で賛成にまわるのでは」との見方もあったが、結局最後まで独と共に反対した。この対立の背景には米欧間に世界観を巡る違いがあるのではないかと見るべきである。

そして、その背景の一つに、一九九八年のNATO軍とユーゴスラビア軍の交戦があるのではないかと考えている。当時自分は、ユーゴに三ヶ月滞在して現代に於ける空爆を体験したが、天の川の星のように、米軍機はライトをつけたまま一万メートル上空に飛来、コンピュータで目標を正確にピンポイント攻撃していた。独仏空軍機は、その技術を持たず米軍機の護衛役に終始、圧倒的な軍事技術力の差があった。米大リーグとアマチュアリーグ程の差があったといえる。

以降、米国は独仏を頼りとせず、二〇〇一年九月十一日の米同時テロを機に「米への攻撃はNATOへの攻撃」としてアフガニスタンを攻撃、戦後処理は欧州軍に任せることになった。その後、米国ではネオコン抬頭となり米国は修羅場に入っているが、欧州は取り残される事となり、ますますネオコン嫌いとなった。

ところで米と独仏の亀裂は一過性のものであるのか、という点に関し独外交官A氏によれば「欧州の考え方はこれまでと変化はないが、米の考えが大きく変化している。つまり九・一一(同時テロの日)と一一・九(八十九年ベルリンの壁崩壊の日)の違いである。(裏面)」

～今後の催物案内～

■ 総会

日時：6月12日(土) 14:30～17:30
 総会：14:30～15:00
 講演：15:00～16:00「日本におけるドイツ 2005/2006」
 ドイツ大使館政治部ケアスティン・ピュルシェル
 女史
 懇親会：16:00～17:30
 場所：ベイヒルトン (JR京葉線舞浜下車、モノレールに
 乗換えベイサイド・ステーション下車徒歩3分)
 地下1階中華レストラン「王朝」
 会費：5,000円

■ 千葉県日独協会と

鳴門日独友好協会の交流会

日程：6月4日 21:50P.M.～ JR浜松町出発(バス)
 6月5日 鳴門市ドイツ館
 捕虜収容所跡
 霊山寺見学
 6月6日 渦潮・大塚美術館見学
 午後「第九」鑑賞、交流会
 夜行バスにて帰途に
 6月7日 6:35A.M. 浜松町着
 費用：39,000円程度(バス移動費・宿泊費・食費・
 交流会費など)
 但し渦潮・大塚美術館・タクシー代は個人負担
 申込：3月15日迄に、先着20名
 申込先：渉外担当理事鈴木淑弘さん(Fax:043-231-0536)
 に氏名・年齢・住所・電話番号を明記して下
 さい。

■ 平尾浩三会長公開講座のお知らせ

期間：5月27日～6月24日の毎週木曜日(計5回)
 時間：16:10～17:40
 場所：日本橋学館大学(柏市内)
 授業料：7,000円
 内容：ハンス・カロッサ著「幼年時代」をテキストに
 して音楽・詩の鑑賞を織り込んだ購読演習。
 問合わせ：同大学総務課 TEL:0471-67-8655
 FAX:0471-63-0096



千葉大留学生のAntjeさん(右)とJuliaさん

(P1より続く)

独仏にとり 11.9 から始まった欧州統合が最優先事項であり歴史上これ迄に見た事のないような統一国家 EU を作る事に全精力を傾注し“ヨーロッパは文明の体現者となろう”と努力しているわけである。その為の足場固めとして、東欧圏まで EU を拡大するのを優先し、ブッシュのイラク戦争とは一線を画そうとしている。」という事になる。

ではどのようにして、ヨーロッパが米と一線を画す事ができるようになったかということ、ここに独の存在がある。つまり、90年代の初めは東西ドイツの統一で国内が不安な時期があったが、当時のコール首相は、「ドイツは普通の国になってヨーロッパの一員として生きていく」と表明、これまでの「異質な国」から「普通の国」になるとの決意を示した。これに対し英仏は反発、“ノルマンディー上陸50周年”にコール首相は招待されなかった。

そのうちに周辺国もドイツを「普通の国」として認め始め、社民党のシュレーダー首相に交代後も、閣僚の1人は「第2次大戦ではドイツ人も被害者であった」と語っている。そして2002年のドイツの選挙でCNNの女性キャスターが「この選挙は親アメリカか反アメリカを問う選挙です」とコメントしていたのが印象的であった。このように「普通の国」ドイツを歓迎しない仏が今回のイラク戦争では何故最後まで独と足並みを揃えて反対したのかといえ、仏としては「ドイツを政治的に封じ込めたい」との思いからシュレーダー首相に先ず恩を売って兄貴風を吹かせたいと考えたからではなかろうか?

このように欧州は必ずしも一枚岩ではないものの、一昨年のプラハサミットでは東欧のチェコ、ポーランド、ハンガリー等7ヶ国がEUに加盟して拡大中である。

一方、東欧の中でポーランド・ブルガリア・ルーマニアは親米地域となっている。イラク中部にポーランド軍管区があり、米英軍に守られている格好。ポーランドは、ワルシャワ蜂起でドイツ軍に叩かれて以降、隣国を信用せず米国のみを頼りにしてきている。大統領もイラク戦争前に、「やるかやらぬかではなく、いつやるかである」とブッシュ大統領を刺激していた。かくして、東欧諸国はイラクに派兵、欧米間の潤滑油の役割を果たしている。

ところでEUの対日観であるが、件のA氏に「日本はこの世界の中でどういう意味があると考えているか」と質問したところ、「残念ながら日本の意味はない」との返事。「むしろ意味があるのは中国」との事であった。コール首相は中国に大デレゲーションを派遣、シュレーダー首相も5回訪中したが訪日は一度のみ。90年代初めの東西ドイツ統一時、日本企業は東独に大きな投資をせずドイツを失望させたのが一因である。今でも「日本は米国一辺倒」との印象を与えているという。

更に「日本の外務省は北朝鮮問題中心で動いていて悪夢を見ているようだ」とも言う。そして「対北朝鮮の外交を決めているのは横田めぐみさんです」と。更には「核保有国の北朝鮮との間にホットラインがないのは異常で、かつて冷戦時でも米ソ間にはホットラインがあった事を思い出すべきである」との言葉にホットラインの重要性を再認識した次第である。